

# 奄美新聞に 9月17日の環境学習について紹介されました。

(9月23日木曜日 奄美新聞)

## 特別授業で世界自然遺産学ぼう

奄美市の住用中学校(原憲正校長、生徒10人)は17日、「環境保護活動・生徒会ふるさと美化活動計画」を開催しました。環境省職員を招いて

### 侵略的外来種 セイタカアワダチソウ駆除

世界自然遺産や外来種などの特別授業を行い、実際に外来種の駆除作業を行いました。同校は、2019年からこの活動を始め今年で3回目の開催になります。郷土奄美の豊かな自然の

## 住用中、環境省職員招き

環境保護活動や地域の価値や課題について理美化活動に対する意識を高めることを目的に保護センターの池上温



人自然保護官が、「世界自然遺産としての奄美大島・生物多様性は・外来種の問題点」などの授業を行いました。池上さんは世界自然遺産としての奄美の価値を守っていくための問題点をいくつかあげ、その中の侵略的外来種であるセイタカアワダチソウについて詳しく解説しました。駆除活動は役勝川堤防の約20坪の範囲を、セイタカアワダチソウを駆除し袋に入れる生徒たち

当日は奄美野生生物園(2019年)の駆除のときに種が飛び散って、翌年は外来種が増えていた。2回目は種が散らばらないように工夫し駆除した。今年もセイタカアワダチソウの成長は遅い」と、駆除作業の工夫や外来種の成長具合を話しました。駆除した外来種は袋に入れ、住用支所市民福祉課に処分してもらいました。原校長は「この活動を通して、当たり前にある奄美の自然をもっと知って欲しい。ひとつひとつの動植物に興味を持ち調べてみることで、この島の偉大さを認識して欲しい」と話しました。